

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について（本校の概要）

1 概要

(1) 調査の目的

「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の視点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」（実施要領より）

(2) 実施日 平成28年4月19日（火）

(3) 対象学年 第3学年

(4) 実施教科等 国語A（主として「知識」に関する問題）・国語B（主として「活用」に関する問題）
数学A（主として「知識」に関する問題）・数学B（主として「活用」に関する問題）

(5) 質問紙調査 学習意欲、方法、環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 実施教科等における全国・埼玉県・狭山市・本校の平均正答率（小数点以下四捨五入）

平均正答率	国語A	国語B	数学A	数学B
全国	76	67	62	44
埼玉県	75	66	60	43
狭山市	73	62	58	40
山王中	73	64	59	40

3 考察

【国語A・B】

・選択肢の中から記号で解答する問題に対しては、無解答はほとんどないが、文字数を指定されてその条件のもとに文章で書いて答える問題に対しては、無解答率も県や国の数値よりかなり高くなっている。（問題に対する答えがわからないというよりも同様の答え方を要する学習活動が通常の授業では不足していることも原因の一つと考えられる。）

【数学A・B】

・数学Aについては、県や国の正答率の傾向とほぼ同様であり、問題によっては、県や国の正答率をはるかに上回るものもある。一次関数の変化を割合を求める問題、最頻値や不等式の範囲を応える問題に対しては、県や国に比べると無解答率も高く、正答率も若干低いため、苦手とする生徒が多くいることがわかる。

・数学Bについては、証明問題に対する正答率が、県や国より10ポイント近く低く、無解答率も30%に達している。

【質問紙調査】

・「自分には、よいところがあると思いますか？」との問いに対しては、「そう思わない」と答えた生徒が20%もいて、県や国の比率の倍近くの数値である。数値から判断すれば、自分自身に自信が持てずに、自尊感情が十分に育まれていない生徒の多さを表している。

・「家の人に学校での出来事について話をしますか？」との問いに対しては、肯定的回答をした生徒は70%いるが、「しない」と答えた生徒が14%存在し、県や国の数値より高くなっている。

【今後の対策】

・授業改善のため、全教職員が外部指導者を招へいしての研究授業を実施し、生徒の学力向上に寄与できるアクティブラーニング的な授業やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業への改善を進めている。

